実践事例１　テーマ　「地域の人材・学習素材を生かした総合的な学習の実践」

－地域の教育力を生かした開かれた学校をめざして－

盛岡市立杜陵小学校

連携のポイント

★　学校が都市部にあり、学習素材・人材が多岐にわたって豊富にあることから、その人的・物的環境を生かしながら特色ある学習活動を展開してきました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の特色

本地域は、盛岡市内の中心地にあり、官公庁・マスコミ関係・各種公共施設・商店街が身近に存在しています。また、鮭が遡上する清流中津川・樹木や草花が四季を彩り、南部藩の歴史が刻まれた岩手公園を目前にしています。様々な分野で活躍する名人や知識・経験豊富な高齢者の方々が多く住んでいる地域でもあります。このような恵まれた環境の中で、望ましい子どもの育成をめざして様々な教育活動が行われています。

２　学校の課題　―総合的な学習と地域連携―

総合的な学習では、身近な地域の「ひと・もの・こと」と豊かに関わり合い、自分の思いや考えを伝え合うことで、自己の生き方を見つめたり、対象への理解・愛着を深めたりすることができる子どもの育成をめざしています。

貴重な体験活動を通して地域について学び、地域から学ぶ総合的な学習では、地域の教育力が大きな力となるものです。したがって、学校教育全般にわたる効果的な連携・支援体制作りをし、地域への発信をすることによって、家庭・地域・学校の信頼しあう関係づくりをしていきたいと考えています。

Ⅱ　課題の解決に向けて

１　めざすこと

特色を生かした地域の人材・組織を大切にし、積極的な活用を図ることにより、開かれた学校づくりをめざしています。

２　大事にしたいこと

(1) 開かれた学校づくり（情報公開）

ア　保護者や地域、高齢者を対象にした行事・授業参観を工夫する。

イ　学習成果を発表、発信する機会を設定する。

(2) 地域の特色を生かした人材・組織の積極的活用

ア　各方面から地域の情報収集をする。

イ　地域の人材を発掘・収集・選択する。

ウ　学校ボランティア・人材バンク・施設バンクを作成する。

エ　総合的な学習・生活科の年間指導計画を作成し、人材バンク等を活用した授業を工夫する。

「人材バンク・施設バンク」

資料　「人材バンク・施設バンク」

テーマ	人材・施設・団体名	電話番号	住　所	備　考
地域学習関係	盛岡市役所公園緑課	６〇〇―〇〇〇〇	内丸１２番２号	内線〇〇〇〇
	岩手県庁自然保護課	６〇〇―〇〇〇〇	内丸１０番１号	担当〇〇さん
	盛岡ホタルの会	：	：	代表〇〇さん
	盛岡観光協会	：	：	～の活動に適する
	：	：	：	担当〇〇さん
	：　略	：　略	：　略	：　略
環境関係				
リサイクル関係				
食関係		※　分野別に整理している ※　生活科・総合学習で実際にお世話になった人、団体、施設を大切な財産として集約し、活用している ※　毎年新たな分野を開拓し、内容を充実させている		
動物植物関係				
伝統・文化・歴史関係				
福祉関係				
情報関係				
国際理解関係				
事故・災害関係				

Ⅲ　こんな実践を

１　効果的な活動にするために

(1) 窓口教員は、学年と地域ボランティアとの流れを整理し、学校全体の視野に立った連絡調整を行ってきました。

(2) 地域の人材を学習のねらいや趣旨にそって活用し、活動だけではなく、評価・学びの発信まで行いました。

(3) 事前に安全対策・公共施設の利用マナー・

外部講師との接し方・話し方について指導し、事後には礼状の書き方を指導してきました。

2　総合的な学習の時間における実践例

(1) 第３学年「キッズマート」

ア　講師　肴町商店街の商店主さん
　　みらいとしょかん
　　まちづくり会社

イ　時間　34 時間（地域単元）

ウ　概要

商店主の方々と共に実際の仕入れ、宣伝、販売、売り上げ計算までのすべてを体験しました。学んだことを全校児童・保護者・地域の方々に伝えることができました。

肴町ホットラインでお店を開き、大盛況でした

エ　連携による成果

商店主の方々と共に作業をすることで、商店街を売る側の視点からみることができ、商店の方々の商品や地域への思いに気づくことができました。

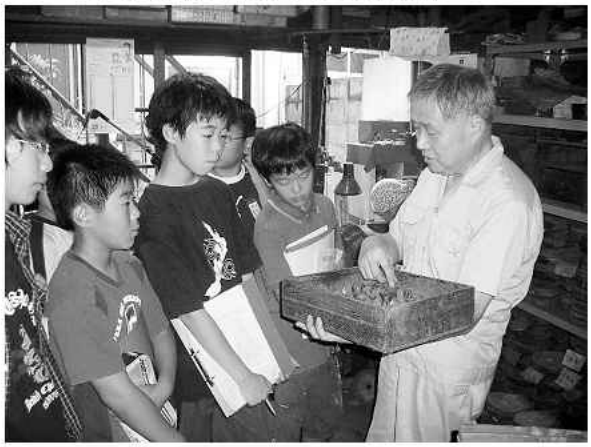
(2) 第６学年「発信しよう盛岡ならでは」

ア　講師　八幡宮山車保存会　蕎麦屋
　　南部煎餅店　舟っこ流し
　　豊香園（石割桜）
　　伝統和菓子店
　　伝統工芸職人（南部鉄器
　　古代型染め　紫根染め）

イ　20 時間（地域単元）

ウ　概要

歴史や伝統のある盛岡ならではのものを調べ、努力や工夫によって今に伝えられていることや、携わる人々の思いや願いを知ることができました。



南部鉄器の職人さんにお話を聞きました

エ　連携による成果

伝統の良さにふれ、文化を大切に守り続ける努力の大切さを知るとともに、これからの自分の生き方について考えることができました。

Ⅳ　まとめ～こんな成果と課題が～

1　地域との連携を取り入れた学習の成果

(1) 子どもたちは、町の人々とじかに触れ合うことで、様々な視点から自分の町を見ることができました。人柄やその人の生き方に感銘したり、町の良さを実感したりすることで、より一層自分の町に愛着をもつことができました。

(2) 地域の方々も、学校と共に子どもたちを育てているという喜びをもって協力してくださるようになり、学校に対し、より深い理解と関心を寄せてくださっています。

2　今後の課題

PTA 図書ボランティアの活動、児童の登下校の安全を温かく見守る「見守り隊」の活躍、高齢者の方々や地域の方々の積極的な行事等への参加など、一丸となって子ども達を育成しようという雰囲気にあふれた地域の教育力を大切にしながら、より一層連携を深めていきたいと思います。

実践事例２　テーマ　「地域連携は読書環境づくりから始まった」

花巻市立湯口小学校

連携のポイント

★　読書活動推進のための環境づくりを、学校を核としながら、ＰＴＡ・地域と連携し、進めました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の課題

湯口学区は花巻市の西約５km に位置し、農業が盛んな町です。保護者はとても協力的ですが、多くは共働きでボランティアの人材の確保が難しいです。また、読書の大切さについて真剣に考えている家庭が多いとはいえません。

２　学校の課題

本校は、全校児童 220 人の中規模校です。

図書室は、特別教室だけがある北校舎の 3 階に位置し、子どもたちにとっては、決して環境が良い所とはいえません。読書推進活動については、図書委員会や図書担当教諭が様々な工夫をしていますが、子どもたちの読書に対する関心はそれほど高いとはいえません。

教職員は日々の授業や分掌の仕事に追われていることもあり、子どもの読書推進に対する意識は決して高いとはいえません。

Ⅱ　課題の解決に向けて

１　めざすこと

教職員・保護者が、読書の大切さについて理解し、具体的な活動を推進することにより子どもたちが進んで読書を楽しもうとする態度を育てること。

２　考え方

(1)　PTA 教養部の活動を活発化することにより、子どもの読書活動を推進することができるのではないか。

(2)　地域連携窓口教員を中心としながら図書ボランティア等の活動を行うことにより、子どもの読書活動を推進することができるのではないか。

Ⅲ　こんな実践を

１　PTA 教養部の活動

(1)　読み聞かせ活動

数年前より、年２回給食時間に各学級で PTA による読み聞かせ活動をしています。読み聞かせをしてくれる人はその都度募集しました。

給食時間の読み聞かせ

(2)　PTA 対象の講演会の実施

平成 17 年度、「今、なぜ読書か」という演題で北上教育事務所の佐々木征子氏による講演会を実施しました。読書が今の子どもたちにとってなぜ必要で、今なぜ読書といわれているのかを、PTA 会員及び教職員に理解してもらうことが、子どもの読書推進にとっての第一歩であると思いました。

(3)　PTA「教養部だより」の定期的発行

PTA 教養部で活動していることを中心に年間８号を発行しました。

(4)　その他の活動

ア　「かけはし文庫」への献本運動の実施

イ　PTA 図書（教養文庫）の購入と紹介

ウ　長期休業中の読書活動の推進

エ　読み聞かせボランティアと図書ボランティアの立ち上げ

2　地域連携窓口教員と地域との関わり

(1)　読み聞かせボランティア活動

朝・給食時間・昼休み・放課後等都合の良い時間帯に、図書室・教室・集会室等で読み聞かせをしていただきました。子どもたちに本の楽しさを伝えるためと、図書室をもっと身近に感じてもらうために行いました。２学期には毎週月曜日、朝学習の時間に１～４年生の各学級に来て読み聞かせを行いました。子どもたちは月曜日の朝を落ち着いた雰囲気で楽しく聞いています。

(2)　図書ボランティア活動

２年前に立ち上げました。合言葉は「都合のつく時に、やりたいことをやれるだけ、無理なく楽しく子ども達のために！」人数は今のところ６人と少ないですが、毎月２回定期的に活動を行っています。初めは本の修繕をしていただきました。花巻図書館の方や東和の読み聞かせボランティア「ちえの輪」さんにもご指導いただきました。次に、分類の表示や本の種類の表示を作っていただきました。次は図書室をもっとすっきり使いやすくするために、廃棄本の選定と廃棄処理簿の記入をしていただいています。最近では新しい感覚での図書室空間作りに着手しました。本棚を低くしたり、配置を換えたり、本の並べ方の工夫をしたりと、魅力ある図書室にするためのディスプレイに奮闘中です。完成が楽しみです。

図書ボランティアによる図書室の改装

(3)　上記以外の地域人材による活動

他にも、いろいろな人材を活用して、子どもたちの読書推進を行っています。

ア　地域の方の昔話会

元学童クラブの先生が放課後定期的に来て昔話を語ってくれました。お話をじっくり聞き入る子どもの姿が印象的でした。

地域の方による昔話会

イ　地域の方のマジックショー

マジックが上手な青年がいるという情報を聞き、何度か来ていただきました。会場の図書室は満員御礼でした。

ウ　学校外の方の読み聞かせ

①　地域の方の読み聞かせ

②　ボランティア団体の方による読み聞かせ（３回）

③　県外の方の読み聞かせ(全校児童)

(4)　ボランティア研修会への呼びかけ

ボランティアに関する研修会は、随時参加を呼びかけ、都合のつく範囲で参加していただいています。ボランティア活動をすればするほど、さらに自分の力量を高めたいとか、やるからには少しは勉強したいという方がいらっしゃいました。

Ⅳ　まとめ ～こんな成果が～

読み聞かせ会や昔話会等を通して、子どもたちは読書やお話の楽しさにふれることができました。また、図書ボランティアの活動により図書室が利用しやすくなり、子ども達は以前よりも図書室を身近に感じるようになりました。

読み聞かせボランティア・図書ボランティアの方々の思いを大切にすることで積極的な活動をしていただくことができました。

実践事例３　テーマ　「健康な体と心を育てる食育の推進」

～学校・家庭・地域の連携を通して～

沢内地域食育連携推進協議会　西和賀町立猿橋小学校

連携のポイント

★　地域食育連携推進協議会で食の問題点や食育の方向性を明らかにし、学校・家庭・地域で様々な食育に取り組みました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の課題

食生活が大きく変化し、食が社会的な課題になっていますが、本地域でも、偏った栄養摂取、不十分な朝食内容、食事マナーの乱れ、地域の食材や食文化の軽視などの問題が明らかになっています。

また、本地域では、「生命尊重」を村是とし住民の健康管理に努めてきた経緯があり、食育が行政の重要課題にもなっています。

２　学校の課題

学校は、全校児童 32 名の小規模校です。沢内学校給食共同調理場が隣接しており、年に数回、学校栄養職員による栄養指導を行っています。

その結果、児童は食品に含まれる栄養、好ましい食事のとり方などの知識をある程度理解しましたが、実際は、「栄養バランスをあまり考えないで食べる」、「食べる時の姿勢やマナーが悪い」など、実践が伴わない現状があり、実践意欲を高めたいと考えました。

Ⅱ　課題の解決に向けて

１　地域で目指すこと

〈基本方針〉

①学校を核とした食育の推進

②規則正しい生活習慣の見直し

③家族のきずなの確立

〈スローガン〉

○　早寝、早起き、みんなでごはん

○　母の味、地域の味を子ども等に

２　学校で目指すこと

〈目　標〉「食生活への関心を持ち、望ましい食習慣を身に付け、心と体の健康づくりをする子ども」の育成

〈取り組み内容〉

①　給食指導の充実～献立・食材・食品に含まれる栄養、マナー等の指導

②　教科・領域での食育の工夫～食に携わる人々の思いに気づかせる指導

③　家庭・地域との連携の強化

生活科「だいずでとうふをつくろう」（１・２年）

Ⅲ　こんな実践を

１　主な運営組織と役割

(1) 沢内地域食育連携推進協議会

〈構成員〉教育振興運動協議会、PTA 連合会、JA 支所、婦人連絡協議会、区長会、老人クラブ、学校、保育所、農林課、保健福祉課　等、17 組織の代表者

〈役割〉基本方針、事業計画の審議等

(2) 家庭地域連携部会

〈構成員〉教育委員会学務課、生涯学習課、学校保健会食生活検討委員会、PTA 連合会、保育所、JA 女性部　等　９名

〈役割〉事業推進（食育講演会、食育標語コンクール、食育まつり等）

(3) 学校教育部会

〈構成員〉各校校長、調理場栄養職員等

〈役割〉研究・事業推進（給食指導、教科・領域での授業研究、保護者への啓発、情報発信　等）

2　家庭・地域連携部会の実践事例

(1) 家族で作る『食育標語』コンクール

町内全戸対象に「食育標語」を募集した結果、251家庭より、372作品の応募がありました。入賞作品を審査・表彰するとともに、印刷して各家庭に配布し、意識啓発を図りました。

(2) 「食育まつり」の実施

200名を超える子供や地域の皆さんの参加を得、「４団体による人気メニューの紹介と試食」「食育標語コンクールの表彰」「ミュージカル『食と農から幸せワクワク物語』の鑑賞」等を行い、食育についての考えを深めました。

3　学校の実践例

(1) 全校「米作り体験」

地域の「お米の先生」の指導のもと、種まき、田植え、稲刈り、脱穀、餅つき等を体験しました。

「せんばこき」を使っての脱穀作業

(2) 地域の人を迎えての授業

食についての専門的な知識や技能を持つ学校栄養職員や地域の人をゲストティーチャーに迎えて、次のような授業を行いました。

※（　）内はゲストティーチャー

○１・２年　生活科「だいずでとうふをつくろう」（地域に住むおばあちゃん）

○２・３年　学級活動「おやつについて考えよう」（町の主任栄養士）

○４年　総合的な学習の時間「食のむだなし大作戦～大根料理」（JA女性部）

○４・５年　総合的な学習の時間「グーグーおやつだCooking!～おやつ作り」（食生活改善グループ）

○６年　家庭科「まかせてね　今日の食事～郷土料理」（学校栄養職員）

○６年　社会科「食料生産を支える人々～西和賀の現状」（JA職員）

JA女性部長の中村さんをゲストティーチャーに迎えて大根料理について学習中（４年）

(3) 保護者の研修

保護者の食に対する関心や意識を高め、児童のよりよい食習慣づくりを推進していただくため、次のような研修を行いました。

※（　）内は講師の職種等

○食育講演会（レストラン店主）

○郷土料理学習会（食生活改善グループ）

○料理講習会(学校栄養職員)

Ⅳ　まとめ ～こんな成果が～

食育連携推進協議会と学校が同じ方向性で様々な取り組みをすることにより、子どもたちは、よりよい食習慣づくりへの意欲や地域の食材や食文化を大切にしようという思いを強めています。また、地域全体の食に対する意識が高まりと広がりを見せてきました。来年度は、食育を教育振興運動の共通テーマに、町内の各実践区で取り組みを工夫することになりそうです。

実践事例４　テーマ　「地元を流れる北上川とのふれあい活動の展開」

奥州市立白山小学校

連携のポイント

★　４年生の総合的な学習の時間の活動を、地域自然保全団体の協力をいただきながら進めました。

★　３～６年生の全員が、地域の方々と一緒に環境整備活動を行いました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の課題

白山地区は、奥州市前沢区の北東部に位置し、平坦な土地に広い水田が広がるモデル的農業地帯です。最近は兼業化が進み、共働きの家庭も多くなってきました。

また、地区の東側には北上川が流れています。かつては、船による水運の場として川の恩恵を受け、ときには水害などの被害を受けながら北上川と共生してきた地域でした。

しかし、最近はその水辺が雑木で覆われ、ゴミが捨てられ、汚されつつありました。また、堤防整備などを機に、子どもたちは水辺の自然と隔離・遮断されてきていました。

２　学校の課題

本校は、全校児童 65 名の小規模校です。

田園地帯で、豊かな自然がまわりにあるにもかかわらず、子どもたちの自然体験は、多いとはいえず、郷土の自然への理解が十分なされているとはいいがたい状況にありました。

また、教職員の地域の学習素材への理解も十分とはいえない状況でした。

Ⅱ　課題の解決にむけて

１　めざすこと

北上川をテーマに、地域と連携しながら、自然体験活動や環境整備活動をすることで、地域や学校の課題を解決し、子どもたちに環境保護に対する理解や郷土への誇り、愛情を育てていくこと。

２　考え方

(1) 地域の学習素材を活かした体験学習を計画に位置づけることによって、体系的な地域学習を行うことができるのではないか。

(2) 地域の学習素材を活かした学習により、郷土への誇りと愛情をはぐくむことができるのではないか。

(3) 地域団体等との連携を図ることにより、地域学習を効果的に進めることができるのではないか。

Ⅲ　こんな実践を

１　連携主体とその役割

(1) 子ども

ア　地域団体の指導を受けながら、自然環境調査活動や水辺環境整備活動に進んで参加すること。

(2) 家庭

ア　地域の一員として水辺環境整備活動等に積極的に参加すること。

イ　親子の共同体験や会話を充実させること。

(3) 学校（教師）

ア　地域団体と十分な事前打ち合わせを行い、課題解決に向けた学習活動の充実を図ること。

(4) 地域（大曲の水辺に夢をつくろう会）

ア　川についての様々な体験学習の機会を提供することで、子どもたちに対して環境意識を育て、郷土への誇りと愛情を育てること。

(5) 行政（公民館）

ア　事業運営上の人的･経済的支援をすること。

イ　地域団体活動への指導・援助をすること。

2　第４学年における実践事例

本校の４年生は「北上川の博士になろう」と題して、総合的な学習の時間の中で北上川を中心とした環境学習に取り組んでいます。その中で、子どもたちはそれぞれにテーマを決めて調査を行い、学習発表会の中で他学年や地域の方々に発表してきました。

(1) 水質調査活動

ア　実施時期：毎月１回（４月～11 月）

イ　講　師：大曲の水辺に夢をつくろう会
　　：国土交通省

ウ　概　要

①　北上川（大曲水辺公園付近）とその支流の松の木沢川で「天気」「気温」「水温」「透視度」「ＰＨ（ペーハー）」「ＣＯＤ」（水の性質を現す数値）の継続調査を行いました。

水辺の会は多くの地域の方で構成されており、いろいろな専門的知識を持った方がいるので、周囲の自然に関する子どもたちのいろいろな疑問に答えてくれました。また、国土交通省の方には水質調査の具体的な指導をしていただいたほか、試薬の提供もしていただきました。

４学年水質調査

(2) 水生生物調査

ア　実施時期：８月１回

イ　講　師：大曲の水辺に夢をつくろう会

ウ　概　要

①　平成 16 年に水辺の会が製作した川舟を使って北上川の中洲に渡り、昆虫を中心とした水生生物の調査を行ないました。子どもたちは、水辺の会の方々から探し方や見つけた昆虫の名前を聞いて北上川が比較的きれいな状態であることを確認できました。

(3) その他の活動

①　10 月には川崎のモクズガニ養殖場に行き、稚蟹をいただいて北上川に放流しました。また、一関市の「あいぽーと」へ行き、北上川の概要や流域に住む鳥、昆虫、魚等についても学習を深めてきました。

3　第３学年～６学年における実践事例

(1) 大曲水辺公園花壇整備

ア　実施時期：６月１回

イ　講　師：大曲の水辺に夢をつくろう会

ウ　概　要

①　大曲の水辺に夢をつくろう会では、事業の一環として水辺環境整備に取り組んでいて、水辺公園の中に花壇を作り、毎年きれいな花を咲かせています。

この花壇整備には、地区の水辺の会会員の多くが参加しますが、本校からも３学年以上の子どもたちが参加し、地域の方々と一緒に環境の美化に積極的に取り組んでいます。

Ⅳ　まとめ～こんな成果が～

このような地域の自然を学ぶ活動を通して子どもたちは、地域の川である北上川と、その周辺の自然に対する理解を深め、北上川がいつまでもきれいな川であってほしいという願いを持つようになってきています。

また、地域環境美化活動に地域の方と一緒に取り組むことで、地域の人たちとの関係も一層深まってきました。また、自分たちの地域は自分たちで守っていこうという、地域を愛する心情や地域との一体感も持つようになってきました。

実践事例５　テーマ　　骨太の子育てをめざし、家庭・地域・学校の連携で実施した「家庭教育学級」等の紹介　　一関市立磐清水小学校

連携のポイント

★　子ども達がたくましく生きぬく力をつけるため、PTA で「子育てリーフレット」を作成し、公民館と連携し、学校ボランティア・学校職員が講師を務める「家庭教育学級」を開催しています。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域課題

磐清水地域は、人口 1,129 人、世帯数 309、三世代同居家庭が多く、地域行事には協力的な安定した地域です。しかし、少子高齢化や産業構造の変化に伴い、伝統的活動や既存組織の見直しを迫られています。今までのよさを活かしながらも新たな地域づくりが求められています。

２　学校の課題

本校は、「一人一人の輝き」を目指し、自尊感情の育成を教育の基盤としている児童数 39 人の明るく元気な学校です。しかし、子どもを取り巻く環境の悪化を考えると、現在の子どもの生活を充実させながらも将来にわたりたくましく生きぬく力を育成する必要を感じます。

Ⅱ　課題解決の方向性

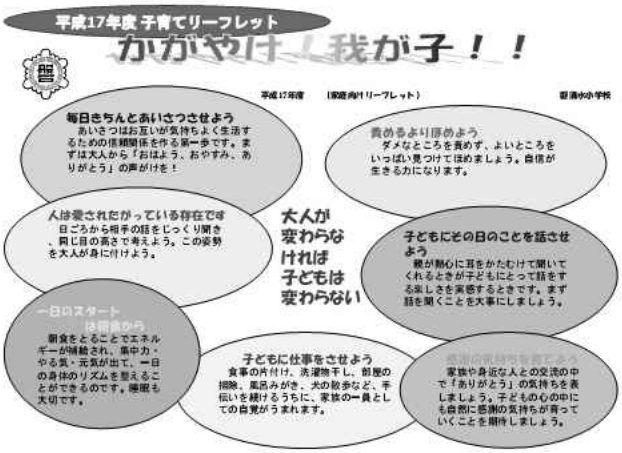
子育ては、学校と家庭・地域が共通課題をもって実践してこそ効果があるのではないかと考えました。そこで、保護者や公民館と連携しながら次のような活動を試みました。

Ⅲ　こんな実践を

１　骨太の子育てをめざして（17 年度）

(1)　ＰＴＡで子育てリーフレットを作成

ＰＴＡ役員と原案を検討し、全会員の試行錯誤の中で図のような「子育てリーフレット」を作成し、地域全戸に配布しました。



(2)　学校職員が講師を務める家庭教育学級

「子育てリーフレット」の内容を周知し、実践を促進するため、公民館と協議しながら、６回の内４回を教員が講師を務める「家庭教育学級」を実施しました。

主題を、「地域の子どもは、学校･家庭・地域で責任をもって育てよう」､キャッチフレーズを“骨太の子育てをめざして！”としました。

第１回目は､「子育てリーフレットの内容と家庭教育学級の趣旨」について、校長が講話しました。２回目は、研究主任が「やる気を育てる、褒め方・叱り方」と題して子どもの意欲を引き出すコツについて楽しく講義しました。３回目は、保健主事が「思春期を考える（心と体のバランス）」と題して、心に寄り添いながらの子育てと抱きしめることの大事さについて話しました。５回目は、「子どもたちの輝き」と題して、教務主任が１年間の輝いている子どもの様子を紹介しながら、輝きを見逃さないことや輝きを作り出すことの大切さを強調しました。

第５回　「子どもたちの輝き」

(3)　家庭教育学級１年目の成果と課題

学校職員が講師を務めることにより、学校経営の重点事項を保護者と共有することができました。「朝食は、家族全員で食べるように

した」「難しいが我が子のよい点をさがして認めるようになった」等保護者の中から、意図的に子育てに取り組んだ実践が報告されました。「講演形式でなくもっと参加型の家庭教育学級にしたい」という前向きな意見も寄せられました。

学校としても、各主任が講座を受けもつことで、より子どもの成長を意識した教育を行うようになり、職員室でも「○○さんがとても輝いた」などという話題が多くなりました。

2　学校大好き、ふるさと大好き（18 年度）

(1) 家庭と学校の連携から地域住民を含めた連携へ

学校や家庭が、子どもの「心の居場所」となっていることが子育て（教育）の基本と捉えています。その土台は、「家庭や学校や地域を愛する心」だと思います。地域の方々にも子育ての輪を広げ、みんなでふるさとの良さを探し、より深い郷土愛をもてるようになれば素晴らしいと考えました。

(2) 学校ボランティアの立上げ

地域に学校支援団体として学校ボランティアを立上げました。環境整備・見守り・畑作・遊び・クラブ・鶏舞・地域学習・もち振舞い隊・道徳教材開発・学校図書の 10 種類のボランティアです。

公民館や地域の諸団体役員の方々の協力を得て、公募で 50 人集まり、学校への期待の大きさを感じました。掌握しているだけでも 7 ヶ月間で、地域住民の 40%にあたる延べ 454 人の協力がありました。予想以上の協力体制に驚いています。

(3) 家庭毎の子育てリーフレットの作成

今年度は、子育てリーフレットをより重要な５項目に絞り、『我が家の努力目標』を家庭毎に決め、家族全員で意識することにしました。第６回家庭教育学級で努力目標の実践交流をしました。

(4) 学校ボランティアも家庭教育学級の担当者

平成 18 年度は、キャッチフレーズを“学校大好き、ふるさと大好き”とし、参加型でアクティブな家庭教育学級を計画し実行しました。

主な趣旨は、「学校と保護者と地域住民が、子育てにおける行動目標を共有し、子どもの成長を促す環境を作る」と、「ふるさとへの愛着を育て、豊かな人間教育を目指す」です。

公民館指導のもと、下記のように、学校職員と地域ボランティアが担当して実施しました。

回	内　　容	講師・担当者
1	講座　地域史跡の学習 「磐清水地区のよさの発見」	地域学習ボランティア
2	親・地域住民・学校職員で 「ふるさと発見ウォークラリー」	地域連携窓口 教員・ＰＴＡ
3	マナー講習会 「豊かな対人関係を築くマナー」	ホテルベリーノ副総支配人
4	親子読書交流会 「読書を通して親子のふれあいを」	図書ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 図書担当教員
5	地域教材「殿、たいへんでございます」を使った道徳授業の提言	教材開発ボラ 6 年担任教員
6	「我が家の努力目標実践交流会」 「来年度の努力目標をつくろう」	学校職員 学校評議員
7	講演会「子どもの心を読む」 ～たくましく、かしこく育て～	坂本光男氏

Ⅳ　まとめ～人の輪が親と子と学校を育てるｴﾈﾙｷﾞｰ～

一歩踏み出して地域に輪を広げたことが、たくさんの温かい出会いをつくりました。家庭教育学級には、参加者の感動と担当者の成長がありました。親・子・地域・学校の郷土愛がやがて“骨太の子育て”のエネルギーになると信じています。